

## 第32話：「とどけ感動 ひびけ海小」

11月4日に、ドミソ発表会が行われました。今年のテーマは、“とどけ感動 ひびけ海小”でした。昨年度から、放送委員会の児童が曲紹介を行っておりますが、今年にはさらに、進行役も児童が務め、地域や保護者の皆様からの温かい拍手に後押しを受けて、立派に大役を果たしてくれました。



今年の発表会で、気付いたことが2つあります。1つ目は、どの学年も、メッセージ性のある曲を選んで発表していたということです。音楽専科の児玉教諭が、子どもたちに歌詞を読ませたり書かせたりしながら、歌に込められた思いや伝えたいことを理解させたうえで、歌唱指導を行いました。子どもたちは、口型に気をつけ、特に歌い出しを大切に、子どもたちは歌声を通して、熱い思いをお伝えできたように思います。

2つ目は、仲間とともに歌ったり演奏したりすることで、協力して曲をつくる喜びを感じていたことです。3年生の児童は、「ぼくは、リコーダーをうまくふいたり、歌を歌ったりすることができました。みんなもきれいな声で、歌ったりリコーダーをふいたりしているのが、すごいなと思いました。みんなといっしょにがんばったのでうれしかったです。」と、仲間と音楽を創る喜びを感じていました。



また、6年生の「アフリカンシンフォニー」に感動したという感想をたくさんの他学年の子どもたちや保護者からもいただきました。6年生にとっては、最後の発表会でした。楽器の構成上、全員が希望通りの楽器を演奏することができないことを考慮し、リコーダーや鍵盤ハーモニカに動きを取り入れるなど、全ての子どもたちが輝きながら演奏できるよ

う工夫していました。6年生の児童は、「合そうでは、演そうするだけでなく、動きをつけることができました。新しい伝統もつくることができましたし、6年生全員が心を一つにしてできたことがとっとうれしかったです。この新しい伝統を次の6年生に受け継いでほしいと思います。」と、達成感を素直なことばで表現してくれていました。



最後に、全校児童が、「ひまわりのうた」を合唱しました。ひまた君とくれあちゃんも飛び入り参加し、会場のみなさま方にもいっしょに歌っていただき、ドミソ発表会を最高に盛り上げていただきました。

5年生の児童が書いているように、「わたしは、来年最高学年なので、今年の6年生のように、かっこよく歌ったり、合奏したりしたいです。」と、来年度のドミソ発表会に向けて、もうスタートが切られているのだと思いました。

校長 寺岡 成希